

# 2016年度 経済地理学会奈良地域大会

## シンポジウム

### 「中山間地域における農林業再生」

日本の高度経済成長期において大量の労働力人口が地方から大都市圏に移動した結果、地域社会の基盤が変動し、生産機能や生活環境の維持・整備等が困難となった過疎地域を生み出した。1970年に出された最初の「過疎法」以来、時限立法としてこれまで4次にわたって「過疎法」が制定され、各種の対策が講じられてきた。しかしながら、経済のグローバル化の中で過疎地域の既存産業は取り残された状態にあるうえ、急速に進む少子高齢化によって地域社会の維持さえも困難になっている。過疎地域が抱えるこうした問題は、これまでの経済地理学会大会および地域大会において何度となく議論されてきたが、過疎問題に対する処方箋は一筋縄ではいかなかった。

そこで、今回の奈良地域大会においても継続して、過疎地域再生に向けての議論を行いたい。本大会では、過疎地域の多くを占める中山間地域を取り上げ、従来の基幹産業である農林業の再生や地域雇用の創出をめざした具体的な取り組みについての報告をもとに議論を行い、地域資源の有効活用による経済基盤安定化や地域コミュニティの維持に向けての方策を模索したい。

日時: 10月22日(土) 13:00~17:00

会場: 奈良女子大学 生環系E棟1階 108教室

参加費: 1,000円(資料代含む)

\* 事前申し込み不要。会場受付にて、参加費をお支払いください。

**開会挨拶・趣旨説明** 吉田容子 (奈良女子大学)

**基調講演** 金 科哲 (岡山大学)

「合併後の過疎地域における「地方創生」の社会的条件」

**事例報告**

中條暁仁 (静岡大学)

「高齢者や女性による地域資源活用の取り組みとその意義」

秋津元輝 (京都大学)

「農林業再生への遠近法的アプローチ

— 支える思想と5戸の集落の実践 —

秋谷奈美 (奈良県下市町役場 地域づくり推進課ふるさと復興協力隊)

「ふるさと復興協力隊が取り組む農林業再生

— 「よしの農林業週末塾」の事例 —

**コメンテータ** 宮地忠幸 (国士舘大学), 寺岡伸悟 (奈良女子大学)

**司会** 西野寿章 (高崎経済大学), 中川秀一 (明治大学)

**後援** 奈良女子大学社会連携センター

**問い合わせ** 奈良女子大学研究院人文科学系 吉田容子

yoko@cc.nara-wu.ac.jp